

会 議 録

会議の名称	和泉市環境審議会【平成 22 年度（第 3 回）】
開催日時	平成 23 年 2 月 24 日 14 時 00 分～16 時 00 分
開催場所	和泉市コミュニティセンター 4 階中集会室
出席者	中原会長 柏副会長 竹歳副会長 中村委員 藤田委員 増田委員 前田委員 杉本委員 須藤委員 堀古委員 村井委員 山口委員 石田委員（以上 13 名 順不同）
事務局	環境保全課
会議形態	公開
会議の議題	<p>（１）第 2 次和泉市環境基本計画について 和泉市環境審議会等での意見等による反映箇所について パブリックコメント実施結果について 第 2 次和泉市環境基本計画（最終案）について 答申（案）について</p> <p>（２）自然環境調査結果について 「生きもの観察会」の実施結果について 「自然環境調査業務」の実施結果について</p> <p>（３）その他</p>
会議の要旨	<p>事務局から前回の審議会の意見等をどのような形で最終案に反映しているかの説明やパブリックコメント実施結果報告が行われた。検討委員会会長からは、最終の検討委員会の状況報告が行われた。</p> <p>また、第 2 次和泉市環境基本計画については、審議会終了後に答申（案）どおり答申を行うこととなった。</p> <p>その他、事務局から自然環境調査関連業務についての進捗状況の報告が行われた。</p> <p>会議では、主に第 2 次和泉市環境基本計画（最終案）や自然環境調査の進捗についての審議が行われた。</p>
会議録の作成方法	<p>全文記録</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 要点記録</p>
記録内容の確認方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている</p> <p>出席した構成員全員の確認を得ている</p> <p>その他（ ）</p>
主な意見	<p>（１）第 2 次和泉市環境基本計画について</p> <p>（第 4 回検討委員会などの意見等による反映と計画書の内容について）</p> <p>【会長】</p> <p>先ほどの資料説明にあるように計画書の修正を行うとのことであるが、本日出席いただいている検討委員会委員長の竹歳副会長に感想も含めて発言をいただきたい。</p> <p>【副会長】</p> <p>検討委員会は 4 回開催し、活発な意見をいただいた。先週行われた第 4 回検討委員会においても資料にあるように貴重な意見やご指摘をいただき最終案として完成度が高まったのではないかと考える。</p> <p>4 回の検討委員会を通して、市民からの公募委員から様々な意見をいただいたが主な意見として、子どもを中心とした市民参加をどのよう</p>

に取組・参加させていくのか、政策実行における縦割りは何とかならないか、市民への広報・周知を充実させてほしいとの意見が多かった。計画案には盛り込めないが、政策実行に際してはご留意いただければと考える。

【会長】

4回にわたって長時間のご討議頂き、ありがとうございます。参考までに p. 138 に検討委員のメンバー構成が載っているのでご覧頂ければと思う。広く一般の市民の皆さんにも参加頂き、できるだけたくさんの方で計画書を作成してきたが、このほかご意見いかがか。

【委員】

前回、お伝えした内容については事務局を中心に修正頂き確認できた。

ほかに確認であるが、p. 107 以降の実施時期と数値目標の中で、「短期」「長期」はどれくらいを指しているのか。

【事務局】

p. 107～p. 133 に「継続」、「短期」、「長期」と表記しているが、継続は注釈にあるように第1次計画からの兼ね合いから現在実施しているものとなっている。第2次計画は10年間を計画期間としていることから、前半であるこの5年間で実施するものについては短期、6～10年の5年間で実施するものについては長期としている。

【委員】

この中で、数値目標のあるものとなないものがあるが、数値目標を設定しているものについては、これから着手するしないを含めて、出せるものを出しているのか、それとも決まっているものだけを入れているのか。例えば継続で実施中であっても、数値目標を挙げにくいものは入っていないが、どのように理解したらよいのか。

【事務局】

数値目標については、現計画から数値目標の数を大幅に減らしたわけではなく、数値目標を設定できるものについて設定したものである。例えば、回数や数値で表すことが難しいものがたくさんあり、数値設定していない箇所が多くなっている。

【委員】

例えば、重点施策の p. 107 で自然環境の観察の機会を拡充するとあるので、現在、継続している自然観察会の回数等が表記できるのではと考えるがいかがか。

【事務局】

p. 107 の2段目に掲載しているように、「水辺の自然観察会」については数値目標を挙げている。その他、別途実施している本日の案件にも挙げられている「自然観察会」については、この2年間は実施するものとなっているが、10年計画の本計画には、数値目標としては掲げていない。

数値目標については、当初、庁内調整の段階で数値目標がないものが多い状態であったが、各課には数値目標の設定をできるだけ挙げるよ

	<p>うにと積極的に事務局から働きかけ、このような結果となった。</p> <p>【会長】</p> <p>最大限努力した結果、このような設定となったことをご理解いただきたい。この計画は、当初スタートのものであるので、計画期間の途中で数値目標を設定し、見直すこともできると考える。</p> <p>【委員】</p> <p>一番気になるのは、和泉再生プランに掲げている信太丘陵の 16h a の当初スポーツレクリエーション施設建設を予定していた市有地の計画についてであるが、平成 25 年度から設計をしていくということで今後どうしていくのが議会でも懸案となっている。土地購入費用だけでなく、利子もある中で、地区内は絶滅危惧種が存在し自然保護団体からも保全するような要望もあり、一方でスポーツレクリエーションの計画もある。そういったことから、この環境審議会の出番ではと考える。この場で保全等の答申が出れば、購入した土地の方策についても議会で議論していかなければならない。このあたりいかがか。</p> <p>【会長】</p> <p>前回の環境審議会で柏副会長からもこの件についてご指摘があった。当審議会では主張するものは立場は立場として主張するが、最終的には市長や議会の政治的判断ではないかと個人的には考えている。今のところ、この件については市長から審議会の意見は求められていない。設計の時期が 2 年先のことなので、決して避けた訳ではないが、本計画書では触れていない。</p> <p>【副会長】</p> <p>p. 37 の環境対策で特に優先すべきもので、ゴミのポイ捨て、不法投棄などについて優先すべきとの報告があるが、前回、犬のフンについても意見があったかと思うがいかがか。</p> <p>【事務局】</p> <p>p. 36、p. 37 の市民アンケートの結果があるが、p. 92 の中で犬のフンのマナー啓発等を盛り込ませていただいた。今後、どのように施策を進めていくかが課題になる。</p> <p>【委員】</p> <p>p. 83 に生ゴミの堆肥化の促進と家庭用生ゴミの堆肥化容器の設置補助があるが、堆肥化容器についてはコンポストのことを指すのか。それとも、いわゆる電気で省力化する生ゴミ処理機のことか。</p> <p>【事務局】</p> <p>家庭用については、補助金を出しているのはプラスチック製などのコンポストのことで、電気を使わないものである。</p> <p>【委員】</p> <p>その場合、広い庭があるなど、ある程度の場所が必要である。他の自治体では生ゴミ処理機についても補助が出るところもあると聞いている。</p> <p>堆肥化されたものは推進とあるので、どう利用されているのか。今後、学校などへの利用も考えられる。</p>
--	--

和泉市内に「 組合」があるが、かなり良い堆肥ができています。これは市と関係があるのか。

【事務局】

「 組合」は民間事業者であり、設立時に農林水産省からの補助金を利用している。事業主体は、地元の生産組合である。コンポストの堆肥については、設置した方は畑や市民農園に還元されていると聞いている。

【委員】

コンポストであれば敷地が必要であり、マンションや団地が多い和泉市はこれらの生ゴミ処理を進めていく必要があるのではと考える。カラスの害も軽減できるのではと考える。市民の啓蒙も含め、そういった補助の検討もお願いしたい。

【会長】

計画書の内容としては p. 83 に反映しているが、広く団地などの処理について考えていく必要はあるのではと考える。実施上で反映していくことでお願いしたい。

【委員】

体裁の問題であるが、p. 3 に計画書の関連性の図があるが、和泉市新エネルギービジョンなどの個別の計画についての関連を示す方がよりわかりやすいのではと考えるがいかが。イメージでだけであればこれでいいかも知れないが、相互に関連するような計画があれば示す方が親切ではないか。

【事務局】

全てを網羅するとなると、例えば一つの部局でも個別計画を2つ、3つ持っているところがあり、かなり多くなる。代表するものとして、p. 32 から総合計画や都市計画マスタープラン、緑の基本計画、その他地球温暖化関連の計画4つほど掲載している。関連計画を調べると個別計画が数多くあり、すべてを記載することは難しいため、このような形となっている。

【会長】

おそらく、全部の計画を網羅することが不可能であれば、主なものをピックアップすることが考えられるが、ピックアップした計画の関連する方は良くて、記載されなかった計画の関連の方は不都合に思われると考える。このようなことから、こういった形式となっているがいかがか。

【委員】

異論はないが、パブリックコメントでもあったように小さな計画から大きな計画まで市の中で実施期間がまちまちで統一されていない指摘があったかと思うが、環境分野の上位計画である本計画を示すことと個別計画の実施期間の差を説明しておくことが誤解を招かないと考えるが。問題は、個別の部局で出された計画とその上位計画との目標や年限の統一が現状では取りにくいことが挙げられるので、情報としてどのように提供できるのかという点について若干工夫の余地が

あれば考えるが。

【会長】

時期のずれについてはいかんともしいが、そのずれを認めながら、平成 23 年度から各部署で施策や計画を検討する際は、この第 2 次計画に則っていくことになる。策定されれば、庁内でも周知されていくと考える。

(答申案について)

【会長】

先ほど答申案と計画書を添えて市長に提出するが、文言等について意見はいかがか。

(意見なし)

【会長】

それでは、文案の通り答申書としたい。

(2) 自然環境調査結果について

(「生きもの観察会」の実施結果について)

【会長】

只今の説明で専門部会の部会長の増田委員に追加、コメント、感想などいかがか。

【委員 (動植物専門)】

今年度の目録は確定していないが、平成 21 年度の確定版については先ほどの説明の通りである。非常に精力的に調査をしていただいたが、最終的に生態目録として整理するのは非常に大変な作業であり、これは N P O 法人のメンバーが多くの知識を持っていることや、大阪府立大学・桃山学院大学の先生方にもメンバーになっていただいて、間違っものにならない様、目録づくりをしている状況である。今年度についても目録確定に時間がかかるのでご猶予いただきたい。

毎年、約 30 名の方が参加いただいている。メンバーについては、図らずも固定しすぎないことや入れ替わりしすぎないような形となっており、10 名が 3 期連続、2 年継続が 10 名、新年度分が 6 名となっており、3 期連続の方々はかなりの技術的な蓄積がある状態となっており、うまく裾野が広がってきているのではと感じている。

【会長】

生きもの観察会はこれからも続いていくが、増田委員には大変忙しい中、ここに至るまで大変なご努力いただいている。まだ中間であるので、5 年ぐらい調査した後、冊子にして和泉市の自然環境の状態のバイブルにしようと考えているが現在は途上となっている。只今の説明で何か質問等いかがか。

【委員】

マガモはいないのか。

【委員（動植物専門）】

マガモは出ている。

【委員】

秋しか出ていないものもあるが。

【委員（動植物専門）】

定期的に同じ場所で調査しているわけではなく、場所を順に移って調査している。人数的に限られており、和泉市の市街地部から山間部まで特徴的に調査するには季節を限定する必要がある。

【委員】

個体数は調べていないのか。

【委員（動植物専門）】

個体数は、ポイントセンサスには必要だが、この調査はルートセンサスに近いので定量的な把握はしていない。

（「自然環境調査業務」の実施結果について）

【会長】

只今の説明についてご意見いかが。

【委員（動植物専門）】

湿地というものがどのようなものか少し補足をさせていただく。ここには貧栄養型湿地に代表的なモウセンゴケ類も存在している状況である。放置すれば植生の単純化が進行したり、周辺の都市化が進んでいるため帰化種が進入することもある。また、もともと湿性湿地がここにあるのは、ススキ群落が成立しているからであるが、自衛隊の演習があまりされていないことから、この群落も木本系の群落に変化してきている。木本系の群落は、草本系の群落より水の消費量が大きくなり乾燥化が起こる。こういう湿地群落というのは、非常に動態的なものであることを認識していただければと考える。

【会長】

他に何か全般的なものも含めていかがか。

（意見なし）

【会長】

それではこれで閉会したい。今後、とりまとめをして3月に第2次和泉市環境基本計画案について市長へ答申したい。